Cinq sens
Aroma consulting

2025
12

COLUMN 冬至と香り―最も暗い夜を照らす、希望の灯り

12月22日頃、一年で最も昼が短く、夜が長い冬至を迎えます。この日は太陽の力が最も弱まる境界であり、古来より世界中で「光の再生」を祈る儀式が行われてきました。その多くに、「香り」が深く結びついています。

日本では冬至に柚子湯に入る習慣があります。江戸時代、「冬至=湯治」「柚子=融通」の語呂合わせから広まったとされますが、その背景には科学的な根拠も。
柚子の果皮に含まれるリモネンは血行を促進し、体を芯から温める効果があります。さらに、強い香りには邪気を払う力があると信じられ、人々は冬至の禊として柚子の香りに身を清め、新たな季節への希望を託してきました。

一方、西洋ではキリスト誕生の際に東方三賢人が捧げたとされる「乳香(フランキンセンス)」が、冬の宗教儀式に欠かせない香りです。古代エジプトやメソポタミアでは神に捧げる神聖な供物として用いられ、その澄んだ樹脂の香りは「祈りを天に届ける」と信じられてきました。シナモンやクローブといったスパイス系の香りも、クリスマスシーズンに温もりと安心感をもたらし、心を活気づける効果が認められています。

冬至の時期、人々は光とともに香りを求めました。香りは目に見えないものですが、脳の大脳辺縁系に直接働きかけ、記憶や感情を呼び起こす力を持ちます。それは「また訪れたい」という深い印象を残す、空間の重要な要素です。

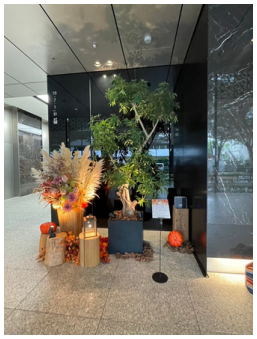
現代においても、柚子やフランキンセンス、シナモンといった伝統的な香りをブレンドすることで、訪れる人々の心に残る特別な体験を創り出せます。
暗闇の中で灯される一筋の光のように、香りもまた人々の心を静かに照らし続けられますよう。

GREETING 2025年、香りとともに歩んだ一年に感謝を込めて

2025年も残すところわずかとなりました。
この一年、香りをご活用いただき心より感謝申し上げます。

商業施設やホテル、イベント空間での香り演出を通じて、多くの皆さまの記憶に残る体験づくりのお手伝いができましたこと、スタッフ一同大きな喜びと誇りに感じております。

香りは目に見えませんが、人の心に深く寄り添い、特別な瞬間を彩る力を持っています。



新しい年を迎えるにあたり、2026年もさらに心に響く香りの体験をお届けできるよう、
精一杯努めてまいります。
来年も変わらぬご愛顧を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
皆さまにとって、新しい年が希望と温もりに満ちた一年となりますように。

サンクサンス株式会社 アロマ空間事業部一同

サンクサンス株式会社　　ノベルティサイト(軽井沢蒸留香房)

HPに会報誌のバックナンバーも掲載しています